



新しい職員のご紹介



5月下旬から本館に配属させていただきました石畠美加と申します。出身は山口県下関市で、進学のために呉に来ました。

2歳と4歳の子どもを育てる母です。透析に関する知識はまだですが、知識・経験豊富なスタッフの方々とともに日々努めていきたいと思っておりますので宜しくお願いします。



新館で勤務している大内陸と申します。

広島生まれで、呉に住むようになったのは、大学生からです。趣味は魚釣りで山口や島根・香川・高知などの県外にも行きます。

現在は准看護師として勤務していますが、広島文化学園大学を卒業しているので、青山病院で働きながら勉強をして、次回の看護師国家試験合格を目指しています。まだ不慣れですが今後ともよろしくお願ひします。



「抗体」

人の身体には、細菌やウイルスなどが入ってくると、これに抵抗して身体を守ろうとする働きがあります。

この時に働く物質のことを『抗体』と言い、細菌やウイルスが悪い働きをしないようにします。人のからだには、自分のからだにないものを見分ける力が備わっていて、それを認識したら『抗体』を作り出して排除します。

この働きを免疫反応といい、『抗体』はいわば、からだを守ってくれる防衛軍(戦士、武器)と言えます。しかし、からだを守る働きをする抗体が逆に悪い働きを起こす場合があります。

いわば反乱軍ですが、これをアレルギーと言います。例えば花粉症の場合、本来有害ではない花粉を敵だと過剰反応し抗体が作用して、鼻水や涙で外に追い出そうとします。

ワクチンは、敵(ウイルスなど)を少しだけからだの中に入れて、敵の特徴を防衛軍に教えています。

敵が2回目からからだの中に入ってきてても防衛軍(抗体)は敵の顔や特徴を覚えているのですぐにやっつけることができます。

しかしワクチンも万能ではないので、手洗い、アルコール消毒、マスク着用など、3密を避ける感染対策を基本とし、優先的に続けていきましょう。

風鈴

古来より暑い夏を少しでも涼しく過ごそうと用いられてきたのが風鈴です。風鈴の音色を聞くだけで涼を感じる方も多いのではないのでしょうか。

風鈴の起源は二千年前の中国で風鈴の道具として用いられた「占術道」と言われています。占術道は中国では鐘のようないくつかの中国語で「風鈴」を指す。中国語で「風鈴」は「ふうたく」という鳴り物を竹林の東西南北に吊るし風の向きや音の鳴り方で物事の吉凶を判断していたそうである。これが奈良時代に仏教とともに日本に伝来し寺院の屋根に吊るされる様になりました。

日本では風鈴は魔除けの効果があると信じられ、風鈴の音の聞こえる範囲に居ると災いが起こらないと信じられていたそうです。鎌倉時代になると、貴族が魔除けとして自宅の軒先に吊るすようになった。「風鈴」という呼び名が使われるようになった。江戸時代以降、風鈴は庶民に身近なものとなり、様々な材質の物が考案されるようになり、変わりが種々として火箸を風鈴として使う「明珍風鈴」という風鈴が有名です。

元は茶室用火箸を制作していたが火箸の需要が落ち込むと火箸を組み合わせて作った風鈴を考案し試みに販売を始めたところ、その澄んだ音色が大人気となり本来の風鈴としての使用も然る事乍ら、楽器として利用されることも多く、彼のステイビー・ワンダーも明珍風鈴を演奏で使用したそうです。

猛暑が続く8月ですが、軒先に吊るし、涼を感じてみましょう。



診療案内

月曜日～金曜日 午前：9時～12時 午後：4時～6時

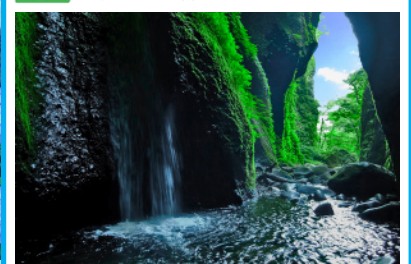
土曜日 午前：9時～12時 午後：休診

休診日：日曜・祝日・年末年始(12月31日～1月3日)・お盆(8月15日)

※8月9日(月)は振替休日の為、14日(土)はお盆の為、外来は休診となります。

月曜日	午前：青山	午後：大村	木曜日	午前：大村	午後：宮里
火曜日	午前：大村	午後：宮里	金曜日	午前：宮里	
水曜日	午前：宮里	午後：卜部・原		午後：竹中(脳神経内科)	
		(腎臓内科)	土曜日	午前：内科(交代制)	

季節の風景



涼 シワガラの滝